

伊賀東照宮崇敬会報

第6号

発行所
伊賀東照宮社務所
三重県伊賀市老川1103-2
TEL 0595-55-2512

ご挨拶

宮司 稲葉 喜代子



新玉の年を迎え、ご崇敬者の皆様始め各地よりご参拝いただきます皆様には、益々ご清祥の段お慶び申し上げます。

昨年は、当宮の護持運営に多大なご支援ご協力を賜りました事、更に、令和の記念事業第一期工事・第二期工事には、多くのご崇敬者・ご参拝の皆様より御協賛を頂きまして無事工事滞りなく完成致しました事、一重にご協力頂きました賜と茲に厚く御礼申し上げます。尚、特にお手洗改築工事に関しましては、ご参拝者の皆様が安心してご利用頂ける多機能設備となりました。

扱、昨年四月八日には、天皇陛下より第六十三回神宮式年遷宮の御聴許を賜りました。

いよいよ、本年令和七年を迎え、この春から十五年にかけてさまざまなお祭りや、行事が執り行われます由、神社関係者は真心を結集して、次の式年遷宮が、完遂できますよう取り組んで参り度存じます。御遷宮に向けて全国の人々の期待が高まり

ます。

振り返り見ますれば、昨年は元旦能登半島地震に尊い命と、全ての財産をなくされ、夏には大洪水にと、生きる希望も見いだせない日々の方々、今だ終結の見えない戦争、気候温暖化が引き起こす大災害、円安、物価高騰との現状下、今、私たちに警告と反省を、問われているのではと、一日も早い平和の世を目指す中、ノーベル平和賞授章の日本原水爆被害者団体の方々を通しての、日本の役割は大です。今こそ、私たちは神様に感謝の誠をささげ、皇室をいただき、神宮さま、氏神様、崇敬神社へ日々の祈りを神棚をとうしての教化実践へと深く思うところです。

扱、当宮におきましては、令和五年NHK大河ドラマ『どうする家康』が放映されたことで、伊賀越えゆかりの限定朱印が大きな反響をいただき、北から南迄大勢の参拝授与に境内が賑わいました年でありました。

家康公生誕の朝城楼上に雲を呼び、風を招く金の龍が現れ昇天したという岡崎城伝説がある。

『開運・勝ち運・平和の神様』御祭神のご神徳にて、昨年はご参拝頂きました方が、神殿から拝殿周辺を

撮影された、米津常春氏の子孫の方が撮影された映像に龍神様が映し出された事で、話題になり次々に訪れる方にも龍神様が映りだされる事で、限定朱印授与を始めたところ大変な反響をいただき、増版増版となり年末を迎えました。伊賀東照宮にご参拝頂き、靈的に奉仕されますお方より口々に龍神様がご鎮座のこと、更に、映像に捉えられることで、ご神徳に努めて参りたいと存じます。

本年もご参拝の皆様は、喜んでいただけるご朱印を授与準備いたしております。

御神木 楓の木の紅葉



会長ご挨拶

伊賀東照宮 責任役員奉賛会会長
愛知県 平松 克将



令和六年五月より皆様のご推挙により伊賀東照宮の奉賛会会長に就任することとなり身の引き締まる思いでございます。住まいが愛知県と少し距離があり、各種行事、準備作業に、ご迷惑をお掛けすることもありますが、ご理解頂きますようお願いいたします。

伊賀東照宮にご縁を頂きましたのは、昭和五十五年頃、愛知県知多市の元監査役員 故Y氏のお嬢様の紹介にて始まりました。毎月の月参り、参拝の都度 創始者坂野つなへ媪命様の体験談、色々な神かかりのお話、不思議な話を聞かせて頂いてるうちに、この世が科学では証明出来ない世界があることはドラマの中でのことかと思っていました。私達は生かされて生きていること、人としての原点をご指導いただき、話を聞けば聞くほどに、天・地・光・水・火、この現世に存在する全てに感謝を申し上げ、生きて行くのに大切なことと思えます。先ず早朝に起床身支度を整え、屋外への礼拝、そして神棚へのお米、塩、水をお供えして礼拝をしています。

創始者のみ教えとして、信じる、悟りを開く、感謝する、が四十数年お参りの年数を重ねていますが、